

学校教育目標	夢のために ともに学び ともにつながり ともに伸びる 児童の育成
育成を目指す資質・能力	基礎・基本の定着 表現力(説明力)の育成 継続して学ぶ力の育成

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○各教科とも「知識・技能」に比べて「思考・判断・表現」が弱い。自分の考えを筋道立てて表現することに課題がある。 ○各教科とも、文章や問いの内容を読み取ることに課題があり、情報を取捨選択する力が弱い。記述式の問題で、無解答率が高い。 ○国語では、叙述を基に、文章の内容を捉えたり、登場人物の気持ちの変化を想像したりする力が弱い。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○学習活動の中で人の話を聞くこと、さらに、自分の考えが伝わるよう工夫して話すことに苦手意識をもっている子どもが多い。 ○家庭学習の習慣がしっかり定着していない子どもが学力面で困っている状況にある。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ○表現する力の育成を継続して行ってきたことで、少人数の中で自分の考えを伝え合うことはできるようになってきた。全体の場になると苦手意識がでてくるようである。 ○5分準備・1分間前着席・休めをして待つことで、落ち着いて授業に取り組むことができるようになってきた。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ○めあてと課題、まとめ、振り返りを位置付けた1時間完結型の授業の実践。 ○自分の考えをもてるような、児童の興味・関心を引き出す課題の設定。 ○一人一人が考えをもつ場の保障とその手立ての工夫。 ○交流の仕方を工夫した対話的活動の場面の設定。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○授業の中で継続的にミニテストや練習問題を行う。 ○基礎基本の定着を図るため、朝の会の前に10分間の補充学習を行う。 ○朝の会、帰りの会の中に自分の考えや気持ちを伝え合う場面を取り入れる。 ○質と内容を考えた家庭学習に保護者と協力して取り組む。	

学力に関する達成指標

○単元末テストで下位層(正答率60%未満)の児童の割合10%以内 ・朝の補充学習10分間において基礎基本となる漢字や言葉のプリント等を担任や学習部が準備し継続して取り組ませることにより、国語の単元テスト言葉・漢字の科目においての平均点を80点以上にする。 ・授業の中でICT機器を活用したり、思考ツールやワークシートを活用したりすることにより、自分の考えを周りに伝えることができた子どもの割合を80%以上にする。
--

